



川内小学校だより

ゆずり葉

第14号

令和2年1月9日
桐生市立川内小学校発行



2020の幕開けです。

「旧年中はお世話になりました。」

令和2年もよろしくお祈いします。」

昨年中、保護者の皆様、地域の皆様には、学校、そして子どもたちを様々な場面で見守り支えていただき誠に有り難うございました。本年もどうぞよろしくお祈いします。

新年を迎え、各ご家庭において子どもたちはどんな目標を立てたのでしょうか。すでに始業式を迎える前の冬休み中から目標に向かい努力し始めた子どもたちも多いことと思われます。もちろん、「エンジンがかかるのはこれから」という子どもも少なくないでしょうね。こうした中、目標達成を目指して強い心で継続できる子もいますが、そうはいかないケースが多いのも事実です。多くの子どもたちはご家族の励ましや支えが必要となります。まだまだ成長途中の子どもたちですので、家庭における日々の生活の様子をしっかりと見守りながら、場とタイミングのよい励ましをお願いできればと思います。



始業式の話の中で「冬休み中、家族とのかかわりはどうでしたか」と投げかけてみましたが、果たして各ご家庭での様子はいかがでしたでしょうか。年末、家の中の片付けやお掃除を進んで取り組む姿はありましたか？お正月を迎える様々な準備にかかわりお手伝いする様子は見られましたか？こうした中で家族でふれあい、改めて家族の存在を感じ感謝の気持ちなど高められたらすばらしいことと思います。

そして常に大切にしてほしいことですが、特に残りの日々が少ない3学期は、今同じクラスで一緒にいる友達や先生とのかかわりを「増やし・広げ・深め」ていけるように心がけてほしいという思いも伝えました。人とのかかわりをいっそう温かなものとし、こうした空間の基、互いの考えを尊重し認め合える雰囲気築いていきたいと考えています。

始業式での児童代表の言葉は4年生2名でした。2人の発表からは“算数を頑張る。自主勉強を頑張る。コンテストに向けて頑張る。集団生活・行動を頑張る。縄跳び練習を頑張る。”というものがありました。2020年がスタートし、子どもたちなりに新たな意気込みをもって3学期に臨んでいこうという姿勢が感じられました。

みなさんご存じのように3学期はあっという間に経過していきます。のんびりしている訳にはいきません。あと3か月経つと、子どもたちは1つ学年が上がります。6年生は中学生になります。それまでにやっておきたいこと、身につけておきたいことに目を向け、欲張って取り組んでほしいと思います。

【教職員の休暇等に係る担任交代のお知らせ】

ひまわり1組担任の教諭が来週から産前休暇に入ることになりました。なお、出産のご予定は3月の第2週目の頃とうかがっています。それまで、お体を大切にされながら元気にお過ごしいただき、3月の朗報を楽しみにしたいと思います。

そして、このことに伴いまして、ひまわり1組担任の後任として教諭が着任します。先生につきましましては、平成28年度まで川内小にご勤務なさっていたとのことですので、高学年の児童の多くは覚えていたようでした。保護者の皆様におかれましても、ご記憶に残されている方が多数いらっしゃると思います。何卒よろしく申し上げます。



子どもたちの事故を減らすためにぜひ手袋を持たせてください。

2学期の後半、寒くなり始めた頃から登校中の子どもたちの姿が目立つようになってきたことがあります。ポケットに手を入れたままの歩行です。(中にはその状態で走っている子もいます。)自分が小さい頃、親から“箸を口に咥えたまま歩き回らない”“ポケットに手を入れたまま歩かない・走らない”を言われ続けてきました。学校では箸を咥えたまま歩き回ったために発生した事故、ポケットに手を入れたままの歩行による衝突や転倒した際の事故について紹介し、子どもたちに注意を促してきています。



各ご家庭でも声をかけていると思いますが、ほっておくと習慣となってしまいます。身近な高校生や大人がポケットに手を入れたままの歩行を目にすると、子どもも同じ行為をしてしまいます。私も登校中に目にした時は必ず注意を促しています。根が素直で正直な川内小の子どもたちなので、最近、通学路で私の姿を見ただけで、ポケットから手を出すようになりました。そんな時は“手袋をしてくるといいね”と声をかけています。3分の2程度の子どもたちは手袋をしています。そうでない子どもも多い状況なので、お子さんが家を出るときには、ぜひ手袋をしていくようにお声がけください。手袋をしているとポケットに手を入れる癖が改善されます。ご協力よろしく申し上げます。

＜校長室でのひとり言＞

始業式に子どもたちに「無病息災」にかかわる話をした。“日頃から健康に気をつけ病気をせず事故に遭わず元気に過ごしていこう”と。でも、そんなことを言っている自分は、毎年必ず年末に熱を出して寝込んでいます。この冬休みの年末も、予想に違わず熱を出して寝床から出られなかった。年が明けても体調が戻らず、年明けはほとんど布団の中。何年か前の年末は大変な高熱だったので開いている医院に出かけたが、これが最悪。午後の診察開始と同時に入ったのに、2時間待ったあげく点滴を2本行い、経過を確認するまで帰れず、解放されたのは夜の10時過ぎ。結局インフルではなかったが、たとえそうであったとしても2度と年末に医者にかかるのはごめんだと思った。

普段は滅多に熱を出すことはないのに、何故か年末になると熱を出すということは、気の緩みからきているとしか思えない。子どもたちに偉そうなことを言っているくせに。しかし、どこかで気を緩める時がないと心身はもたないと考えると、きっと定年を迎えるまで変わらないのかな…とも思う。